

【報道発表資料】

2026年4月1日

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

第32回コカ・コーラ環境教育賞 募集開始

募集期間 2026年4月1日(水)～ 8月31日(月)

活動普及部門(小学生、中学生)テーマ: つかう責任

企画・研究推進部門(高校生以上)テーマ: 容器、水、気候変動

最優秀団体への助成金: 50万円(企画・研究推進部門)、30万円(活動普及部門)
副賞として、北海道での「コカ・コーラ環境ハウス体験学習会」を受賞団体対象に実施

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団(所在地:東京都渋谷区、理事長:井辻 秀剛、以下当財団)は、環境の保全、啓発、美化、環境負荷の低減、および環境教育などに関する顕著な活動を顕彰する「第32回コカ・コーラ環境教育賞」(以下、本賞)を2026年4月1日(水)～ 8月31日(月)まで募集いたします。

本賞は1994年の設立以来、環境教育・環境保全活動の促進を目的に、各地域での活動への助成・支援をおこなっており、これまでの応募団体数は、全国で2,400以上に上ります。

本年度の最終選考および表彰式は、10月17日(土) オンライン形式にて実施します。

32回目を迎える本賞では、国際社会共通の目標であるSDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)、コカ・コーラシステム全体で取り組むサステナビリティの方向性を踏まえ、小中学生、およびその指導者を対象とした「活動普及部門」ならびに高校生以上を対象にした「企画・研究推進部門」の2部門で募集を行い、下記のとおり表彰いたします。

また、受賞団体、個人を対象に、北海道夕張郡のコカ・コーラ環境ハウスに於いて、全国各地の受賞団体が一同に会して交流を深め、自然を学ぶ2泊3日の体験学習会(2027年1月9～11日予定)を実施します。(※詳細は受賞団体に別途案内)



■ 「第 32 回コカ・コーラ環境教育賞」概要（抜粋） * 詳細は、当財団ウェブサイトに掲載

主催： 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
後援： 文部科学省、環境省（予定）
協力： 読売新聞社（予定）

募集期間： 2026 年 4 月 1 日（水）～ 8 月 31 日（月）

募集部門： 【活動普及部門】 対象：①小学生およびその指導者 ②中学生およびその指導者
【企画・研究推進部門】 対象：高校生、高専生、大学生、大学院生およびそれら学生を活動主体とする非営利団体

募集内容： 下記のテーマで、課題解決へ向けて取り組んでいる具体的な活動・実績、研究・企画で応募してください。

募集テーマ：	【活動普及部門】	つかう責任
	SDGs 12 の「つかう責任」に関する活動、取り組み	
	【企画・研究推進部門】	容器、水、気候変動
	容器、水、気候変動に着目した環境に関する取り組み、研究	

表彰：

「活動普及部門（小学生）」

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 30 万円
優秀賞	2 組（註 1）	助成金 10 万円

「活動普及部門（中学生）」

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 30 万円
優秀賞	2 組（註 1）	助成金 10 万円

「企画・研究推進部門」（高校生以上）

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1 組	助成金 50 万円
優秀賞	3 組（註 1）	助成金 10 万円

註 1）授賞数は応募総数や応募内容に応じて最終的に決定します。該当する団体がいないと判断した場合は「授賞なし」とする場合があります。

註 2）活動普及部門 小学生、同部門 中学生、企画・研究推進部門（高校生以上）の 3 つの区分で、それぞれ最も優秀と認められた団体に、文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれかを授賞する予定です。

註 3）小中併置校（※義務教育学校・小中一貫型小学校・中学校）、小中学生混合の団体の場合、別途選考することが相応しい場合は、併置校部門として表彰します。但し、一定基準に満たない場合は、小・中学生いずれか枠に振り分けて選考します。

応募方法: 応募用紙を当財団ウェブサイトよりダウンロードし、必要事項記載の上、下記運営事務局宛にメールにてご送付ください。

第 32 回応募ページ : <https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/32nd/>
コカ・コーラ環境教育賞: <https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/>

応募先: 第 32 回コカ・コーラ環境教育賞運営事務局
メールアドレス: kankyo-forum@tokyo-ws.jp
電話番号: 03-6403-3114(平日 10 時~17 時 ※土日祝除く)

選考・表彰: 応募用紙受領後、一次選考(書類審査)の上、各部門最終選考ノミネート団体を選出。
最終選考・表彰式 10 月 17 日(土) : オンラインでのプレゼンテーションにより
各賞受賞団体を決定、発表予定。

- 最終選考では、各団体の活動、企画をプレゼンテーションしていただきます。詳細は最終選考ノミネート団体へ別途ご案内いたします。
- 表彰式の映像は、後日当財団ウェブサイトにて発表予定です。

■公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団

名称: 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英字名称: The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
許可日: 2007 年 6 月 25 日(※2011 年 9 月 27 日 公益財団法人へ移行)
理事長: 井辻 秀剛
所在地: 東京都渋谷区渋谷 4-6-3
公式サイト: <https://www.cocacola-zaidan.jp/index.html>
概要: 2007 年 6 月に 37 年継続していた日本コカ・コーラボトラーズ育英会と 14 年継続していたコカ・コーラ環境教育財団の事業を継承し、一元的に運営、推進できる母体として設立、2011 年 9 月より公益財団法人に移行しました。心豊かでたくましい人づくり(Healthy Active Life)を理念とし、国際社会が求める青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を通じ、豊かな国際社会の形成及び国際親善に寄与することを目的とし、内閣府に公益認定を受け、事業を展開しています。
主な事業内容: 環境教育、奨学支援、災害復旧・復興支援を柱とした各種社会貢献事業

■雨煙別(うえんべつ)小学校 コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の歴史ある廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、体験型の環境教育プログラムの拠点であり、特定非営利活動法人 雨煙別学校が、自然体験学習を中心とした教育活動を実施しています。2010 年のグランドオープン以来、小学校の宿泊学習をはじめ、大学生の実習やスポーツ合宿、企業研修等、多くの人に利用されています。

公式サイト: <http://uenbetsu.jp/>





■日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティ

原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社を日本の「コカ・コーラシステム」と呼んでいます。

日本のコカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。

日本コカ・コーラ サステナビリティ公式サイト: <https://www.cocacola.co.jp/sustainability>

〈第31回(2025)コカ・コーラ環境教育賞〉

選考委員長 総評(抜粋)

今回も全国から多くの応募をいただき、本当に感謝しております。コカ・コーラ環境教育賞の輪が、ますます広がっていることを感じております。

受賞団体 コメント

【活動普及部門(小学生) 環境大臣賞】

学校法人国本学園 国本小学校 (東京都世田谷区)

自分たちの取り組みがこんなに大きな賞を取れるなんて思ってもいなかったので、大変嬉しいです。この取り組みは自分たちだけで取れたものではなく、たくさんの方々の協力のおかげで取れたものだと思います。ありがとうございました。

【活動普及部門(中学生) 文部科学大臣賞】

金沢大学附属特別支援学校 (石川県金沢市)

学校としてできる範囲で取り組みを進めてきましたが、最初、子どもたちは清掃活動を通じた学習に対して、あまり乗り気ではありませんでした。しかし、活動を繰り返す中で、環境問題に対して自分たちで課題を見つけ、これからどのようにみんなに伝えていくかを考えられるようになり、大きな成長を感じています。今後も、いろいろな取り組みを外部の方に発信しながら、自分たちの力で課題解決をしていきたいと思っております。(指導者コメント)

【企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞】

北海道岩見沢農業高等学校 (北海道岩見沢市)

受賞することができ、とても嬉しいです。これまで積み重ねてきた努力が認められたようで自信につながりました。今回の経験を糧に、これからも一歩ずつ成長していきたいと思っております。この度はありがとうございました。

活動概要

【活動普及部門(小学生) 環境大臣賞】

学校法人国本学園 国本小学校 (東京都世田谷区)

課題発見をし、自発的に行動できる本校の子ども達が身近な生活用品の資源循環を通じて、CO₂排出量削減、さらにサーキュラーエコノミーサイクルの一端を担う取組を実施した。その過程で、社会課題をジブンゴトとして捉え、子ども達が発案したプロジェクトが学園だけでなく、地域や企業を巻き込み多くの人々の意識変容を促した。

【活動普及部門(小学生) 優秀賞】

プラネットリーダーズ山内エコクラブ (大阪府大阪市)

プラネットリーダーズ山内エコクラブは、滋賀と大阪を拠点に、水質調査や生き物観察、清掃活動などを通じて、子どもたち自らが地域の自然や環境と向き合い学ぶ団体です。琵琶湖から淀川、そして世界へとつながる川の環境を調査しながら、地球規模の環境課題を考え、学び、発信しています。活動の原点には、「水を守ることは命を守ること」という信念があります。この信念のもと、都市部における環境問題、海プラ等のゴミ問題を上流域の仲間と連携しながら、共に考えメッセージ発信を行なっています。

【活動普及部門(中学生) 文部科学大臣賞】

金沢大学附属特別支援学校 (石川県金沢市)

「海岸にあるプラスチックや PET ボトルごみは、どこからくるのか？」を明らかにするため、2023 年から現在まで継続して SDGs14 番の学習を行ってきた。今年度は海岸のみならず河川の全流域で清掃活動を行い、ごみの動向を探ってきた。その結果、陸域のごみが河川を流れて海に流れ出し、それが海洋ごみになること、排出の原因は、人間であることが明らかになった。

【活動普及部門(中学生) 優秀賞】

劇団シンデレラ (愛知県名古屋市)

「夢と希望と冒険・自然と共に生きる」をテーマとするファミリーミュージカル劇団。

「生きものたちの声を届ける」「SDGs を広める」ことを目標に、森、海、湿地など自然環境の保全や「使う責任」の具体策としての「4R の推進」や脱炭素を目指した「デコ活」など誰にでもできる SDGs をテーマに、オリジナルミュージカルを多数制作・上演している。

【企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞】

北海道岩見沢農業高等学校 (北海道岩見沢市)

冬に降り積もる雪で雪山を造成し、その断熱材として籾殻を被覆することで夏まで雪を保存、雪冷熱として活用する。具体的には、雪山の下に通したパイプに水を流し、冷水となった水を冷媒にしてファンで冷風を創り出すことでハウス内を冷却する。また、断熱材として利用した籾殻はペレットに加工し冬場の暖房燃料として活用する。さらに、その燃焼灰はケイ酸質として翌年の水稻肥料に活用し、籾殻の循環利用による周年栽培モデルを実現させる取組である。